

農業総合研究センター かわら版

第117号 平成30年6月8日発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部

〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27

電話：023-647-3505

* 研究企画部では、記事に関する皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。

<主な内容>

- お知らせ ～今後の行事予定～ ……1 ページ
- 食品関連企業の組織に「食品加工支援ラボ」と研究成果を紹介 ……1 ページ
- 「農業技術研修開講式」を開催～JA 若手指導員の研修スタート～ ……2 ページ
- 「つや姫」「雪若丸」の田植えイベントが開催 ……2 ページ
- 期待の県産種雄牛「満開1」産子の枝肉出荷始まる ……3 ページ
- 若手研究員からの一言メッセージ！ ……4 ページ

お知らせ ～今後の行事予定～

「第61回東北農業試験研究発表会」の開催

農業関係試験研究の進展や東北農業の振興に寄与することを目的に、東北地域内の農業関係試験研究機関における各分野の最新の研究成果が発表されます。

本県の試験研究機関からは、11件の発表を予定しています。

(1) 日時：7月31日(火) 10:00～16:00

(2) 場所：コラッセふくしま (福島市三河南町1番20号)

食品関連企業の組織に「食品加工支援ラボ」と研究成果を紹介 ～食品加工開発部～

5月14日(月)に農業総合研究センターにおいて、山形県食品加工研究会が主催する「技術セミナー」および「食品加工支援ラボ視察会」が行われました。

この研究会は、県内の食品関連企業からなる組織で、工業技術センターが事務局となっています。今回は、当センターの食品加工支援ラボの視察と食品加工関係の研究成果の紹介が研修内容として取り上げられ、約30名の会員が2班に分かれて研修しました。

技術セミナーでは、食品加工開発部の研究員3名がオウトウ、すいか、ラ・フランスの加工技術の研究成果について発表しました。参加者からは、試作した際の風味や色、食感についての質問が寄せられ、担当研究員と情報交換が図られました。

食品加工支援ラボの視察では、参加者らは熱心に機材や処理能力等を確認しており、「試作に利用してみたい」と新たなアイデアを膨らませている様子が覗えました。

今回の研修会后、食品加工相談窓口には、各企業から試作の相談や施設の利用についての問合せが増えています。食品加工支援ラボの本格稼働を迎え、施設や研究成果を広く活用いただきながら、県産農産物を使った新たな商品が誕生するよう、より一層支援に力を入れていきます。



技術セミナーでの研究成果発表

「農業技術研修開講式」を開催

～JA 若手指導員の研修スタート～

～水田農業試験場～

5月17日(木)に水田農業試験場において農業技術研修開講式を開催し、JA庄内たがわ職員3名、JA庄内みどり職員1名の計4名の研修を開始しました。研修は来年1月31日まで毎週1日行い、研究員と一緒に試験研究に取り組みながら水稲や大豆の栽培管理技術、試験研究の取組み内容などを習得します。

水田農業試験場では、昭和52年から庄内地域のJA職員を農業技術研修生として受入れており、これまで延べ58名が研修を行っています。研修を受けたJA職員は、庄内地域の中核的な営農指導員として活躍しています。

開講式では、研修の内容や日程、試験場の施設等についてガイダンスを行いました。各研修生が研修受講の意気込みなど抱負を述べるとともに、出席したJAの先輩職員や水田農業試験場職員から激励がありました。これまでの研修生は、技術習得はもとより、研修中に培った研究員等との人間関係を新しい技術の普及や地域の課題解決に活かしており、積極的に交流することが大事であるとの助言がなされました。

本年度研修を受ける4名の方には、営農指導の基礎となる水稲や大豆の技術習得に幅広く取り組んでいただき、今後、地域農業を支えるリーダーとして大いに活躍されることを御期待いたします。



農業技術研修開講式



水田農業試験場内見学

「つや姫」「雪若丸」の田植えイベントが開催

～土地利用型作物部～

5月24日(木)に山形市立南山形小学校の学習田において、デビュー9年目を迎える「つや姫」と今年の秋に本格デビューする「雪若丸」の田植えイベントが開催されました。

雨が心配された中でしたが、田植えが始まるころには絶好の田植え日和となり、吉村知事をはじめ山形市立南山形小学校の児童やモンテディオ山形のコーチ、つや姫レディ、チーム雪若丸ら約70名の賑やかな声が圃場に響き渡りました。

吉村知事は恒例となったもんぺ姿で、また、児童たちは小さな手で不慣れな田んぼに足を取られながら、「つや姫」「雪若丸」の田植えを行いました。

田植え後には、参加者全員で昼食をとり、「つや姫」「雪若丸」のおにぎりや地元産のきゅうり、アスパラガス、保護者の方々が調理した豚汁を美味しくいただき、会話に花を咲かせました。

児童たちはこれからこの学習田で、田植えから収穫までの農作業を通して、食べ物の大切さを楽しく体験していく予定です。

当センターでは、日本を代表するブランド米となった「つや姫」同様、弟君の「雪若丸」も全国に羽ばたくお米となるよう、安定栽培技術や食味向上技術の確立に日々取り組んでいきます。



「チーム雪若丸」結成



吉村知事、児童らの田植え

期待の県産種雄牛「満開1」産子の枝肉出荷始まる ～順調な船出に期待がふくらむ!!～～畜産試験場～

平成 27 年 2 月にデビューした県産種雄牛「満開 1」の産子が肥育牛としてようやく出荷時期を迎えました。現場後代検定成績において、当時の本県歴代最高を記録し、大きな期待が寄せられていた中、この度出荷された 5 頭全てが A 5 に格付けされ、うち BMS No. 12 が 2 頭いるなど、期待どおりの成績が示されています（表 1）。

「満開 1」産子は平成 28 年 6 月の最上子牛市場を皮切りに上場・取引が始まり、主に県内の肥育農家が購入・肥育しています。県内では、既に千頭以上の子牛が生産されており、今後の枝肉成績が注目されている中、良質な「総称山形牛」の生産・販売に期待が膨らむ船出となりました。

「満開 1」本牛の高い能力はもちろんですが、父の「平忠勝」、昨年度の宮城全共において優等賞を獲得した息子の「翼満開」と、三代に渡る県産種雄牛ファミリーの活躍が益々期待されます。

表 1 「満開 1」産子の枝肉成績（5 頭；平均出荷月齢 29.6 ヲ月）

性別	母の父	枝肉重量	ロース芯	バラの厚さ	皮下脂肪厚	BMS No.	格付	肥育地	出荷月齢
去勢	第 1 花国	603	92	11.1	1.7	12	A - 5	東根市	29.5
去勢	福之国	484	52	9.0	3.5	12	A - 5	庄内町	27.9
去勢	第 1 花国	607	74	10.0	2.7	11	A - 5	朝日町	31.3
メス	平茂晴	437	70	9.1	2.4	10	A - 5	尾花沢市	30.3
去勢	福之国	450	65	7.1	2.8	8	A - 5	真室川町	29.0
平均		516	70.6	9.3	2.6	10.6			29.6

若手研究員からの一言メッセージ！

農業総合研究センター土地利用型作物部 研究員 おおばのぞみ 大場望美

私は、今年度新規採用職員として、土地利用型作物部に配属になりました。主に麦類・大豆の奨励品種決定調査、そばの優良品種の開発などの試験を担当しています。

約2か月が経ち、毎日行うようになったことがあります。それは天気予報の確認です。先輩（二瓶さんと三瓶さんがいます）に「畑作物はお天気商売」とよく言われます。

5月は夏そばや大豆の播種作業があり、播種日の前日や当日に雨予報があれば、予定していた日程をずらさなければならず、天気の重要さを身に染みて感じています。

また、作物を栽培するにあたって、観察することが大切だと感じています。いつ芽が出たのか、病気や虫の被害はないか、実際に自分の目で見ないとわからないこともたくさんあります。日々の業務で学んだことや先輩に教わったことを吸収しながら、研究員として成長できるように頑張りたいと思います。



大豆の播種作業

園芸試験場バイオ育種部 研究員 もりやまけん 森山拳斗

私は、園芸試験場バイオ育種部に配属され、漬物用として加工されるなす品種の育成に取り組んでいます。

現在、「薄皮丸なす」という品種が置賜地方を中心に栽培されていますが、食味が優れている一方で、温度が低いと果実の肥大が不安定となるため、5～6月の収量が低く、着色不良果や裂果が発生するため商品果率が低いことが課題です。「薄皮丸なす」の食味を活かしながら、課題となる諸形質を改善した新品種を育成することが目標です。

私にとって「加工用なす」という言葉は聞き慣れないものであり、そのための育種があることに驚きを感じました。現在は低温期でも安定して果実が肥大する単為結果性の調査に加えて、交雑用に播種した個体の育苗管理も行っています。

本課題で学んだことを、山形県職員として、農業の現場にどのように反映していくことができるのかを常に考えながら職務に当たりたいと思います。



なすの単為結果調査